

田舎で暮らしたい人は少なくないのに仕事がない。地方の雇用を支えてきた大企業の工場は海外に移った。どうすれば働く場を創り出せるのか。

森にこだわり

岡山県西栗倉村。面積の9割超を森林が占める人口約1500人の過疎の村は、あえて森にこだわった。村や住民も出資した地域商社「西栗倉・森の学校」ができて5年、村は変わり始めた。

原木を切り、出荷するだけでは雇用は増えない。森林保全から製材加工、商品化、販売まで地

「すべて地元産」PR 千客万来

人口病に 見つけ

地域を創り直す ③

に増え、2014年は黒字化がみえてきた。西栗倉の発想に引かれ、移住してくる人も、家具職人の大島正幸(34)は新人をほぼ毎年受け入れている。木工デザイナーや油製造販売、酒屋など多彩な起

小さな一番が雇用生む

業者も現れ、約70人の働場ができた。森の学校は「ロカルフレストシユパークから「カルベンチャーの集積地」は60人超の雇用を生

地方の有効求人倍率は東京より低い



「そがアヒル」と機や一時の田舎を乗り越す。その商品は一切受け入れ、創業14年で従業員を70人余りまで増やした製子(80)が出した案は、波長や方向を自在に変え、来年分の電卓予約まで入った。「稼げるから」ニッチトップ(GNT)企業」だ。5年後は100人超を目標とする。輸出天国のドイツでは規模は小さく、一般に無名だが、世界市場で競争力が高い製品をつくる約1300社が輸出の4分の1を占める。経営者ら「ハーマン・サイモンはこらした企業が最近10年、新たに100万人の雇用

に▼Web刊↓紙面運動